

# リード芦屋新聞

発行元

芦屋市立  
あしや  
市民活動  
センター

リードあしや

## 共生社会の実現へ

### パラリンピック成功を祈り、採火式

東京パラリンピックの採火式「あしやの火」が8月12日、芦屋市立精道小学校で開かれた。火には共生社会の実現に向けた市民の思いが込められ、大会の成功を祈って東京に送られる。

「あしやの火」は芦屋市とリードあしやが共同で開催。本来であれば昨年、より大規模に行う予定だったが、新型コロナウイルスによる東京オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、感染症拡大防止対策をとりつつ、約40人と規模を縮小して開催された。火は「まいぎり式」とい

う、古代の方法を採用。なかなか火がつかず奮闘している中、見事に火がつき、参加者からは歓声と拍手が

わき上がった。着火した火は7月26日から8月6日、芦屋市内の各福祉施設で行われたデジ



タルスタンプラリーで集められたメッセージを書いた半紙に点火し、より大きく燃やされた。その後、伊藤舞市長らによってランタンに移された。8月16日に神戸市で行われる集火式で各市の火を集め、東京に運ばれる。芦屋市福祉部障がい福祉課の柏原由紀課長は「火が付いたのは昨日が初めてだったので無事に付いてよかった」と安心した様子で話した。（西野琴音）

## 高校生ら躍動の書 市民の思い込め、「あしやの火」



採火式に合わせて書道パフォーマンスもあり、共生社会実現への願いを込めて、市民らが巨大な紙に「あしやの火」としたためた。

精道小学校の体育館であった。パフォーマンスには、リードあしやで開かれている「書の寺子屋」に参加する小学生や県立芦屋高校の書道部員らが参加。縦4頁、横8頁の紙に、「みんなの笑顔が広がりますよう

に」「みんなが幸せになれる社会」「優しいまちに」など、市民が寄せたメッセージを貼り付け、たつぷりと墨を含ませた太い筆を走らせていった。

最後は、伊藤舞市長らも加わって完成。「共生のまち芦屋 あしやの火 未来へつなごう」と大書された作品に仕上がった。作品は4つに分け、9月中旬まで芦屋市役所で展示される。